

病院再編説明会 Q&A

市立病院再編に向け開催した説明会で、参加者から質問や意見がありました。主な内容を紹介します。

問 民間医療機関の応募がなく、市で若柳病院、栗駒病院の外来診療を継続する場合、診療所設置の考えはないのか。また、継続する場合の期限はあるのか。

答 病院活用事業者の募集を行い、応募があれば、その民間医療機関に引き続きお願いし、応募がなかった場合は、市が当面の間外来を継続する。将来は、病院でなく診療所という形で残したい。また、その期限は、現時点で明言できないが、できるだけ継続したい。

問 若柳病院や栗駒病院からの転院に必要な病床数は、現在の栗原中央病院だけで十分受け入れ可能とのことだが、病院活用事業者の募集は、外来のみ行う病院を募集するのか。

答 入院も実施してもらいたい。また、応募者の提案内容で外来しかできないという提案があった場合は、協議により判断したい。

問 応募条件を市内の医療機関に限定した理由は何か。

答 地域医療を支える市内の医療機関の皆さまの意向を

問 優先に考え、市内の医療機関に限定した。

答 応募があるまで募集し続けるのか。

問 統合再編は仕方ない。赤字改善に向け人件費の削減を行っていると思うが、信頼される市立病院となるために、優秀な人材確保や定着が重要だと思う。

答 主な収入である診療報酬は、国で決めており値上げができず、人件費などの経費をいかに削減するかが重

問 要になる。人件費の削減は、定年退職に合わせた採用人数で調整していく。また、優秀な医師や看護師の確保に引き続き努力する。

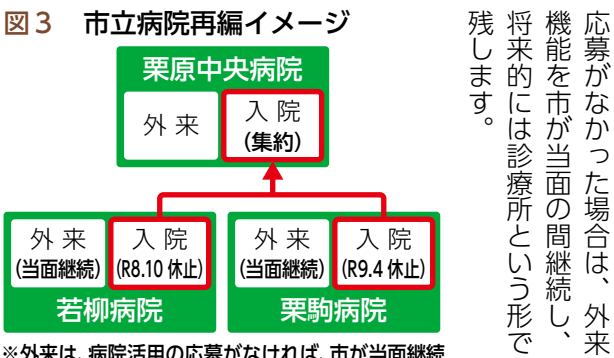
問 無料乗車証制度は、どのような内容か。

答 再編で栗原中央病院に転院された入院患者の家族を対象に、若柳病院の場合は市民バス若柳線、栗駒病院の場合は若ヶ崎線を活用し、栗原中央病院間のどのバス停からも乗車できる無料乗車証の交付を予定している。

● 外来診療 若柳病院と栗駒病院を病院として活用する事業者の募集を行い、応募があった場合は、民間医療機関として医療サービスが提供されます。また、

● 病床の集約 若柳病院の療養病床を令和8年10月に、栗駒病院の療養病床は令和9年4月に休床し、療養病床は、栗原中央病院に集約します。(図3)

● 外来診療 若柳病院と栗駒病院を病院として活用する事業者の募集を行い、応募があった場合は、民間医療機関として医療サービスが提供されます。また、



※外来は、病院活用の応募がなければ、市が当面継続

● 地域医療を24時間体制で支える栗原中央病院を維持・継続 市内では、休日や夜間の救急対応を栗原中央病院が担っています。引き続き、

● 市民が安心して医療を受けられる環境整備 市内で安定的に医療サービスが受けられるようにします。

● 入院患者家族の交通手段確保 病院再編により、影響があった入院患者の家族通院支援策として、市民バスを活用した無料乗車証制度を整えます。

● 市立病院職員の雇用と処遇を適切に守る 医師や看護師など、医療を担う人材が不足する中、医療スタッフの確保は重要です。引き続き、市立病院職員の雇用と処遇を適切に守っていきます。

● 市立病院職員の雇用と処遇を適切に守る 医師や看護師など、医療を担う人材が不足する中、医療スタッフの確保は重要です。引き続き、市立病院職員の雇用と処遇を適切に守っていきます。

● 地域医療を守るために 再編は、地域医療を守り続けるための重要な決断です。何卒、ご理解をお願いします。

● 地域医療を守るために 再編は、地域医療を守り続けるための重要な決断です。何卒、ご理解をお願いします。

病院再編の主な内容

市立病院を再編する計画内容は、次のとおりです。

市立病院を再編 ～栗原の地域医療を守るために～

市は、市立病院を維持・継続するため、病院再編に向けた説明会を開催しました。6月と7月に合計4回開催し、455人が来場しました。市立病院の経営状況と再編計画、説明会で寄せられた意見などを紹介します。

問 医療局医療管理課 ☎(21)5631

図1 市立3病院の1日平均入院患者数(結核病棟を除く)(単位:人)

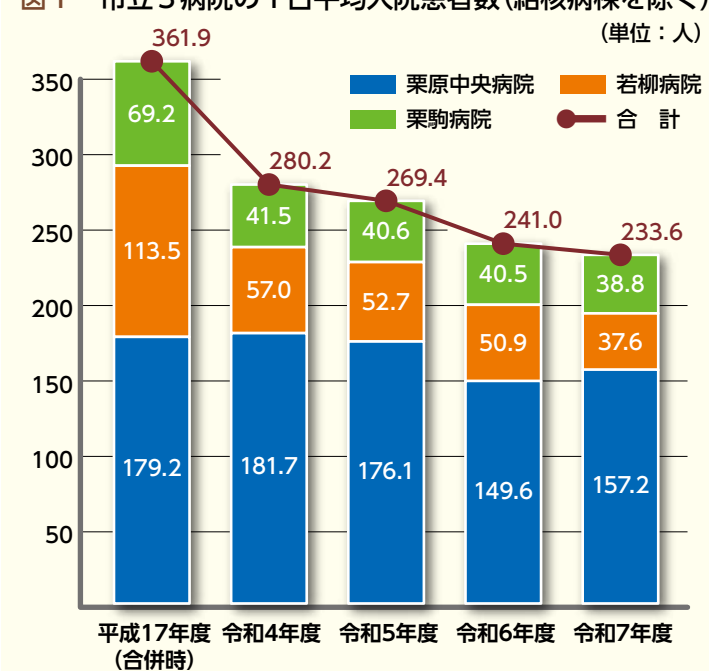


図2 市立病院事業の財政状況(3病院合計)

年度	総収入	総費用	純損失
令和元年度	79億 223万円	87億3,120万円	△8億2,897万円
2年度	88億9,102万円	89億8,063万円	△8,961万円
3年度	86億8,414万円	88億9,765万円	△2億1,351万円
4年度	85億 925万円	87億5,238万円	△2億4,313万円
5年度	78億5,424万円	86億6,187万円	△8億 763万円
6年度	74億2,789万円	90億4,376万円	△16億1,587万円
7年度	76億4,982万円	90億8,925万円	△14億3,943万円

市立病院を取り巻く経営環境 物価高騰や人件費の上昇など、全国の公立病院の多くが経営環境の悪化に直面しています。その中でも、全国の多くの過疎地域は、人口減少による患者数の減少が進み、経営環境の厳しさが、さらに増えています。これは、栗原市立病院も同様で、経営に大きな影響が出ています。

市の人口は、合併時より2万4千人減少し、一日当たり

の平均入院患者数も約233人まで減少しています。(図1) また、令和6年度の純損失は、約16億円、令和7年度は、約14億円となる見込みで、近年赤字額が大幅に増加しています。(図2)

避けられない病院再編 市民の「命と健康」に関わる大きな課題と市立病院の厳しい経営環境を踏まえ、市は、栗原市立病院あり方検討委員会を設置し、有識者や地域の代表の知見や意見を聞きなが



▲若柳病院



▲栗駒病院

ら、これまで検討を続けてきました。その結果、医療サービスを提供し続けるためには、市立3病院体制を見直し、栗原中央病院へ集約することが最も現実的と判断しました。